

外国につながる子どもの学習支援ボランティア研修会 実施報告(公開版)

区分:報告

掲載日:2025 年 3 月 24 日

内容:2024 年度外国につながる子どもの学習支援ボランティア研修会を開催しました。

開催報告

2024 年度外国につながる子どもの学習支援ボランティア研修会 ～地域で子どもの成長・発達によりそう支援を考えよう～

<概 要>

●目 標:

- ・ 学習支援教室の活動を振り返り、子どもによりそった支援のための工夫・アイデアを共有する。
- ・ 子どもにとってよりよい環境を作るための具体的な実践事例や多様な支援者・支援機関等との連携事例から学ぶ。学習支援教室のボランティア活動を振り返り、子どもによりそって支援するための工夫やアイデアを共有する。
- ・ 支援者同士のつながり作り。

●日 時:2025 年 1 月 30 日(木)、2 月 6 日(木) 9:30-12:00 全 2 回

●場 所:第1回 オンライン開催(Zoom 使用)
第2回 横浜市国際交流協会 会議室

●対 象:横浜市内及びその近郊で外国につながる子どもの学習支援をしている方

●講師:

第 1 回:清長 豊さん(公認心理師、NPO 法人アジャスト代表理事)

第 2 回:小山 那実さん

(都筑小学校所属/日本語支援拠点施設「都筑ひまわり」日本語支援アドバイザー)

●参加者:第1回 30 名、第2回 26 名(延べ 56 名)



1回につき2時間半で全2回、計 5 時間の研修を行いました。第1回をオンライン、第2回を対面で行うことで、それぞれの開催方法の良さを生かし、参加しやすい研修を目指しました。
どちらの回もグループディスカッションを交えながら、学びました。

第1回研修会「子どもの成長・発達によりそう学習支援」

清長 豊さん(公認心理師、NPO 法人アジャスト代表理事)

オンラインで開催した第1回は、愛知県犬山市で発達に関するサポートが必要な子どもや外国につながる子どもの学習支援を行っている清長先生をお招きしました。清長先生は、公認心理師で、その専門性を生かして個々の子どもに寄り添い、子どもに合わせた環境づくりや学習支援をされています。日本語や日々の学習に困難を抱える外国につながる子どもの学習支援を行う際のヒントをたくさんいただきました。

*講師のお話

外国につながる子どもの
学習支援ボランティア 研修会
～地域で子どもの成長・発達によりそう
学習支援を考えよう～

第1回(2025年1月30日(木))
テーマ: 子どもの成長・発達によりそう学習支援
講師: NPO法人アジャスト代表理事
清長 豊 先生

公益財団法人 横浜市国際交流協会
YOKOHAMA ASSOCIATION FOR INTERNATIONAL
COMMUNICATIONS AND EXCHANGES (YIOE)

前半は、子どもの成長・発達や、発達障害の定義について、事例を紹介しながらお話いただきました。子どもだけでなく誰でも凸凹があり、個々の子どもに合わせて支援していくのが大事だということを改めて確認しました。個人ワークとして、まず、支援者である私たち自身の苦手なことをプラスに変えるタスクを行いました。後半は、環境調整の観点から、具体的なサポートの方法や教材を紹介していただきました。

*グループワーク



後半の講義のあと、今度は想定する子どもの個性を理解するグループワークを行いました。子どもたちの個性を分析し、マイナスをどうプラスに変換するか、生かしていくかを考えました。

話し合いの中で、「できないことに目を向けていたけど、良さを出せる活動をやったらいいのではないかなと思った。」「(よいところが)一つでも見つけ出せるといい。」「発達や言語だけで分類して考えられるわけではなく、さまざまな要因を分析する必要があることが勉強になった。自分たちの支援にも活かしていきたい。」などの意見が出されていました。

参加者の声(アンケートより一部抜粋)

- ・ 自分をうまく伝える手段に困っているという点で、発達障害の方と外国につながる方に共通点があるという視点に大変共感いたしました。マイナスと捉えていた面をプラスとして捉えなおすことで打開策を探るというメソッドも、機会を平等にするための道具もとても参考になりました。
- ・ 分かりやすく、説明していただいた。心理的な面、自閉症、ADHD 面の配慮などあまり知らなかったことが、具体的に分かった。
- ・ 「発達障害か、言葉の問題か」という二項対立では語れない、というお話は忘れずにいようと思いました。どうしても原因を特定することに注力してしまう現場もあると思うので、子どもたちを守ることが大事という先生の言葉が心に残りました。

第2回研修会「横浜で学校と地域で共に支える支援」

講師：小山 那実さん

（都筑小学校所属 日本語支援拠点施設「都筑ひまわり」
日本語支援アドバイザー）

第2回は Yoke 会議室で行い、今年度も横浜市の日本語支援アドバイザーの先生に来ていただきました。都筑小学校の教員で日本語支援アドバイザーの小山先生には、横浜市の外国につながる児童生徒の現状や支援体制や学校での具体的な日本語指導等についてお話を伺いました。

また、2回のグループワークを通して、支援体制への理解が深まり、参加者自身の支援について検討することができました。

* 講師のお話

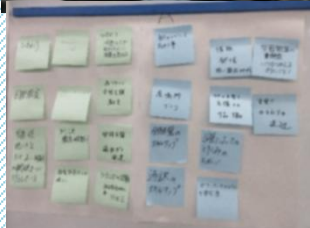


横浜市の支援体制や日本語支援拠点施設「ひまわり」、国際教室での日本語指導の紹介を通して、地域での支援のヒントをたくさんいただきました。

地域での学習支援のヒントとして、子どもの気持ちになってみることや、具体的な支援方法なども紹介していただきました。

また、「子ども達が地域の教室に関わりを求めて楽しみに通っている。たくさん話を聞いて、ほめてあげてほしい。」と温かいメッセージもいただきました。

* グループディスカッション



グループディスカッションを2回行い、それぞれ意見を付箋紙に書きだし、紙に貼って共有しました。

1回目は、現在横浜市で行われている支援体制のよいこと（「ひまわりで学校生活が学べる」等）、よりよくするためにできること（「国際教室のない学校とのつながり」等）をグループで書きだし、よりよい支援体制につながる意見を出し合いました。

2回目は、参加者自身が①今ががんばっていること、②これから取り組みたいことを書き出し、グループで話し合い、意見交換やアドバイスをを行いました。「結果を出さなきゃと思っていたが、そうではないことがわかった。」「子どもに達成感が生まれるようにしたい。」「他の支援者の事例も聞けて参考になった。」など、様々な気づきが共有されました。

** 参加者の声(アンケートより一部抜粋) **

- ・ 自分が知らなかった横浜での取り組みを知れてよかったです。ひまわりや国際教室といった場所で、どのようなことがされているのかイメージができました。
- ・ 子どもの具体的事例などを紹介いただいた。横浜市の活動が系統的に理解できた。
- ・ 学習支援教室に来ている子どもたちが来日後どのような学習をしていたか、理解できたので、それをつなげられるような支援ができるような気がします。